

九州・沖縄地区ニュース

No.109 2011.3

日本学術会議 九州・沖縄地区 代表幹事 吾郷 眞一

九州・沖縄地区の会員、連携会員の皆様におかれては、平素より地区の学術活動の中心となってお活躍いただいておりますことを、お礼申し上げます。九州・沖縄地区ニュース109号をお届けします。

第21期日本学術会議も2年目を迎え、さまざまな活動の中で、日本の学術の進展に寄与するよう努力しています。

日本学術会議あげての労作「日本の展望 学術からの提言2010」も出され、その実現に向けての働きかけが鋭意行われています。閉塞感ある社会状況の中、しかも事業仕分けや多くの逆風をうけつつも、学術の振興は逆にそういう状況だからこそ「元気が出る日本」を目指して中心的な役割を果たすべきだと思われま

九州地域は、昨年は自然災害にも見舞われ、

今年も新年早々大きい災害が発生し、予断を許さない環境にあります。科学の力が社会を変えていく、という基本的認識の中で、日夜九州沖縄地区の科学者は真理を追究しています。これからも、その基本的な活動の中から、「日本の展望」を土台とした様々な提言も行っていこうとしています。

さて、九州・沖縄地区会議では、平成22年度の活動として、平成22年6月に九州大学の協力を得てサイエンス・カフェを、平成22年11月に熊本大学の協力を得て、科学者懇談会を開催いたしました。

今後とも九州・沖縄地区会議においては、地域における研究者の交流の場の提供、市民に向けた学術情報の発信に努めて参る所存です。

「九州・沖縄地区サイエンス・カフェ アジアで生き延びる! - 社会的責任(CSR)を基にして - 」

主 催：日本学術会議

共 催：九州大学

協 賛：九州 CSR 協会

日 時：平成 22 年 6 月 25 日(金) 19:00~21:00

場 所：プロント 福岡電機ビル北館店(住所：福岡市中央区渡辺通 2 - 1 - 82 九州電気ビル北館 1F)

サイエンス・カフェとは、科学技術の分野で従来から行われている講演会、シンポジウムとは異なり、科学の専門家と一般の人々が、カフェなどの比較的小規模な場所でコーヒーなどを片手に、科学について気軽に語り合う場をつくらうという試みです。今回は、スピーカーに九州大学の吾郷 眞一副学長、九州大学大学院法学研究院の山下 昇准教授、また、ファシリテーターに九州 CSR 事務局から杉元 勝先生、小林 修先生をお迎えし、「アジアで生き延びる! - 社会的責任(CSR)を基にして - 」をテーマとして、サイエンス・カフェを開催いたしました。

参加された 30 名の方々と共に考察し、今グローバル化した世界のなかで取り残されないため足元を見直し、法律のようであって法ではない行為規範である CSR を基にして、法律の専門家と参加者がその実態に迫り最先端の知見を共有いたしました。



サイエンスカフェの感想(アンケート調査から抜粋)

20代 女性

これからの時代を生きていく人間は、世界の人、特にアジアの方と付き合うことが多くなると思います。CSRと向き合うことで、相手の国の文化や考え方を知るきっかけになると感じました。紛争解決をする時に、“人”と“人”としてわかりあえるかもしれないと思いました。

勉強になりました。ありがとうございました。

科学者懇談会

日 時：平成 22 年 11 月 23 日(火) 12:00～13:30

場 所：熊本交通センターホテル（住所：熊本市桜町 3 - 10）

日本学術会議九州・沖縄地区会議は、熊本大学の共催を得て開催した、「学術と大学に求められるもの～新たな知の創造と持続的発展に向けて～」をテーマとする講演会に先立ち、日本学術会議金澤一郎会長を迎え、熊本大学を中心とする下記の関係各位の参加を得て、科学者懇談会を開催しました。



冒頭、金澤会長から、日本学術会議の活動概要について説明があり、それをもとに、我が国の学術を取り巻く昨今の状況分析や、大学における教育・研究の活性化について意見交換がなされ、活発な議論が行われました。

機関名	所属・職名	氏名
日本学術会議	会長	金澤 一郎
	九州・沖縄地区会議代表幹事	吾郷 眞一
	第一部会員	木下 尚子
	第二部会員	満屋 裕明
熊本大学	学長（日本学術会議連携会員）	谷口 功
	理事・副学長	安部 眞一
	理事・副学長	田口 宏昭
	理事	森 光昭
	文学部・教授（日本学術会議連携会員）	積山 薫
	大学院生命科学研究部・教授（日本学術会議連携会員）	入江 徹美
	大学院生命科学研究部・教授（日本学術会議連携会員）	山縣 ゆり子
熊本学園大学	経済学部・教授	荒井 勝彦
熊本県立技術短期大学校	校長	岩井 善太
熊本高等専門学校	校長	宮川 英明
熊本保健科学大学	学長	小野 友道
尚絅大学	学長	大羽 宏一
東海大学	副学長（九州キャンパス担当）	加藤 雅史
放送大学熊本学習センター	所長	崎元 達郎

学術講演会「学術と大学に求められるもの ～新たな知の創造と持続的発展に向けて～」

日 時：平成 22 年 11 月 23 日(火) 14:00～16:10

場 所：熊本交通センターホテル（住所：熊本市桜町 3 - 10）

九州・沖縄地区会議では、熊本大学と共催し、様々な社会的な課題や人材育成のために学術、あるいは大学に求められていること、果たす役割とは何かなどを具体的な研究内容も含めて多角的に紹介するため、谷口功熊本大学長の司会のもと、学術講演会を開催しました。講演会では 2 名の講師による講演と地域社会からの意見を交えたパネルディスカッションを行いました。



「チンパンジーからヒトを見る」

友永雅己（京都大学霊長類研究所 准教授）

友永先生からは「チンパンジーからヒトを見る」という演題でご講演いただきました。

『私たちヒトの進化の隣人であるチンパンジー。チンパンジーを理解することは私たちの来し方と行く末を知ること。ゲノムに書かれた暗号のレベルでは 98% まで同じなのに、さまざまな側面において、チンパンジーとヒトのここは違っている。特に「自己」を知り「他者」を知るといふ、人間にとっては非常に大事な能力に、その差が集約されている』と日頃の研究成果を、ユーモアを交えながら、分かり易く説明いただきました。

「『ここ』はどこにあると、先生はお考えですか？」との会場からの質問に、「頭の中（脳）にあると言うしかないが、チンパンジーの我が子に向けた行動を見ていると、『ここ』というのは、意思、感情、知恵から成り立っていると思う。」と回答。チンパンジーへの愛が溢れた講演でした。

講演会の感想（アンケート調査から抜粋）

50 代男性 高校教員

2 本の講演はとても良かった。学術的世界に普段いない者にとって、とても心地よかった。

40 代女性

著名な先生のお話を聴く機会を得て、有り難いと思う。このような機会をどんどん提供していただきたい。



「AIDSの治療薬開発アプローチ：がん等の難病治療薬の牽引車」

満屋裕明（日本学術会議第二部会員

熊本大学大学院生命科学研究部 教授）

満屋先生からは、1980年になって突然出現したAIDS（後天性免疫不全症候群）の治療薬の開発についてご講演いただきました。

AIDSという病気は、治療法が全くなかった時代、発症するとその殆どが2年以内に必ず死亡するという恐ろしい「死の病」でしたが、AIDS治療の進歩によって現在では20種類を超える治療薬が臨床に供され、AIDSは「治療可能な慢性感染症」と定義されるようになりました。これらの治療薬は、AIDSを起こす元凶HIV（ヒト免疫不全ウイルス）の増殖に必須でかつ特有の酵素・分子のみを「狙い撃ち」にする「分子標的薬剤」です。この「分子標的アプローチ」はインフルエンザや、がん等の難病に対する治療薬の開発に用いられる様になって、最近大きな成功を収めています。この講演ではAIDSに対する「分子標的アプローチ」について分かりやすくご説明いただきました。また、「サイエンティストはカッコいい！」と若い人へ向けた強いメッセージもいただきました。



パネルディスカッション

地域から大学に求めるもの ～市民との対話～

引き続き、「地域から大学に求めるもの～市民との対話～」をテーマとして、パネルディスカッションを開催しました。

パネリストは、村田真一熊本県副知事、社団法人熊本県工業連合会の足立國功会長、熊本県公立高等学校長会の中原伸一大学入試委員長、NPO法人ワークショップいふの星子邦子理事長、株式会社熊本放送報道制作局の福島絵美放送部 部次長に、お引き受けいただきました。

谷口功熊本大学長（日本学術会議連携会員）のコーディネートの下、パネリスト5名から、1）行政、2）産業界、3）中等教育、4）市民、5）卒業生、とそれぞれの立場から、ご発言いただくと共に、会場の参加者を交えて活発な意見交換がされました。



パネルディスカッションの感想（アンケート調査から抜粋）

50代男性

学術の振興と優秀なサイエンティストの育成は、大学にかかっている。もっと市民の理解を得ることが必要。大学のPRが重要。

10代女性 大学生

様々な研究を進め社会貢献して欲しいと思う。私たち大学生も、より勉強して少しでも社会貢献ができるようになりたい。

平成 22 年度事業報告

1. 地区会議

- 1) 平成 22 年 7 月 1 日 (書面回議)
 - (1) 22 年度日本学術会議九州・沖縄地区会議事業計画 (熊本大学開催分) について

2. 科学者懇談会の開催

- 1) 平成 22 年 11 月 23 日(火) 熊本大学 (熊本市)
 - 金澤 一郎 日本学術会議会長
 - 谷口 功 熊本大学長 他

3. 学術講演会等の開催

- 1) 平成 22 年 6 月 25 日(金) 九州大学 (福岡市)
 - 九州・沖縄地区サイエンス・カフェ
 - 「アジアで生き延びる! ~ 社会的責任 (CSR) を基にして ~」
 - スピーカー
 - 吾郷 眞一 (九州大学 副学長・大学院法学研究院教授)
 - 山下 昇 (九州大学 大学院法学研究院准教授)
 - ファシリテーター
 - 杉元 勝 (九州 CSR 協会事務局)
 - 小林 修 (九州 CSR 協会事務局)
- 2) 平成 22 年 11 月 23 日(火) 熊本大学 (熊本市)
 - 「学術と大学に求められるもの~ 新たな知の創造と持続的発展に向けて ~」
 - 演題・講演者
 - ① 「チンパンジーからヒトを見る」
 - 友永 雅己 (京都大学霊長類研究所 准教授)
 - ② 「AIDS の治療薬開発のアプローチ: がん等の難病治療薬の牽引車」

満屋 裕明 (熊本大学大学院生命科学研究部 教授)

「地域から大学に求められるもの~ 市民との対話 ~」

パネリスト

- 村田 信一 (熊本県副知事)
- 足立 國功 (社)熊本県工業連合会会長)
- 中原 伸一 (熊本県公立高等学校校長会大学入試委員長)
- 星子 邦子 (NPO 法人ワークショップ いふ 理事長)
- 福島 絵美 (株)熊本放送報道制作局放送部 部次長)
4. 地区ニュース (No. 109 号) 発行 (平成 23 年 3 月)

平成 23 年度事業計画

1. 地区会議

- 1) 平成 23 年 6 月 九州大学事務局 (未定)
 - (1) 23 年度事業計画について
 - (2) 科学者懇談会・学術講演会の開催について
 - (3) 地区ニュースの発行について
- 2) 平成 24 年 3 月 九州大学事務局 (未定)
 - (1) 23 年度事業実施報告について
 - (2) 地区ニュースの発行について

2. 科学者懇談会・学術講演会の開催

- 1) 開催地・開催場所: 未定

3. サイエンスカフェ

- 1) 開催地・開催場所: 未定

4. 地区ニュース

- 1) No. 1 号発行 (24 年 3 月)

日本学術会議九州・沖縄地区会議

吾郷 眞一 (第一部所属 九州大学 副学長・大学院法学研究院教授)

河野 正憲 (第一部所属 福岡大学 法科大学院 教授)

今西祐一郎 (第一部所属 大学共同利用機関法人

人間文化研究機構国文学研究資料館長)

木下 尚子 (第一部所属 熊本大学 文学部教授)

水田 祥代 (第二部所属 九州大学 名誉教授)

満屋 裕明 (第二部所属 熊本大学 大学院生命科学研究部教授)

伊藤 早苗 (第三部所属 九州大学 応用力学研究所教授)

新海 征治 (第三部所属 崇城大学 工学部教授

・九州先端科学技術研究所所長)

発行 2011 年 3 月

編集 日本学術会議 九州・沖縄地区会議

代表 吾郷 眞一

〒812 8581 福岡市東区箱崎 6 10 1

(九州大学学術研究推進部学術研究推進課内)

電話 092 642 2131 (ダイヤルイン)

FAX 092 642 4317

E-mail kissomu@jimukyushu-u.ac.jp